

平成29年9月7日開会

平成29年第3回東松島市議会定例会

# 議員総括質疑通告書

東松島市議会

## 議員総括質疑 目次

平成29年第3回定例会

順位	会派名 議員氏名	件名	頁
第1位	清風・公明 五ノ井 惣一郎	1 平成28年度決算意見書に対する所見を伺う	2
第2位	復興クラブ 上田 勉	1 平成28年度の決算の成果について	3
第3位	清新会 滝 健一	1 平成28年度一般会計、各種特別会計決算における政策的成果等に関する総括について	4
第4位	市民クラブ 佐藤 富夫	1 平成28年度決算の所見を問う	5

氏名	質疑事項	要旨
<p>第1位</p> <p>清風・公明</p> <p>五ノ井 惣一郎</p>	<p>1.平成28年度決算意見書に対する所見を伺う</p>	<p>震災から6年半が経過した。本定例会も前年度の決算議会の審査を迎えた。前年度から引き続き、全国各地からの職員派遣および任期付職員の補充により多くの復旧、復興事業が実施された。平成28年度の一般会計、特別会計の総計決算額は、歳入744億151万3,076円、歳出671億4,161万4,192円で、前年と比較して、歳入349億2,778万1,963円、歳出で334億733万9,892円が減少している。</p> <p>平成28年度では、「復興の具現化」と「新たな東松島市の構築」の方針により震災復旧復興関連事業等、また一般業務も遂行され、改めて敬意を申し上げる。平成28年度の決算、基金運用状況は意見書の結びにまとめられている。</p> <p>平成28年度から平成32年度までは発展期として取り組まれているが、平成32年度から、交付金も終了し財源も不足する中で、少子高齢化、社会保障等が財源を圧迫することは間違いない。</p> <p>就任から6カ月がたった。改めて東松島市の市長として、平成28年度決算一般会計・特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見書に対する所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	質疑事項	要 旨
<p>第2位</p> <p>復興クラブ</p> <p>上田 勉</p>	<p>1.平成28年度の決算の成果について</p>	<p>前市長は、平成28年度の予算編成にあたり、その所信において、震災時、地域コミュニティにより育まれた「市民協働」の体制・質の高い「市民力」が発揮され、困難を乗り越える力を見たとし、震災からの「鎮魂と感謝」の気持ちを忘れることなく本市の財産でもある「市民協働」体制の開始と第2次総合計画における東松島市総合計画前期基本計画に基づき、5つの重点施策を重視し、戦略的に取り組むとして予算を編成したが、次の事項について伺う。</p> <p>(1)重要施策の成果について</p> <p>安全安心に暮らせる防災自立都市づくり 若い世代の定住促進 健康寿命の延伸 自治協働の推進 産業の振興推進</p> <p>(2)分野別施策の成果について また、8つの分野別施策を相互に連携を取り地域の魅力を最大限に引き出し、着実な振興を指導するとした。 8つの分野(保・備・健・伸・修・住・働・信)の完成度のうち、特に備・伸(待機児童の解消と子育て世代への軽減策)・住(東矢本駅の停車・新交通システム)について伺う。</p> <p>(3)復旧復興は加速したか 震災から6年半が過ぎた。 決算状況を見ると、平成23年度以降通常分と震災分が分かるように記載されている。年々震災分の予算が減少し、通常分が震災前の状況に戻りつつある。 一方で執行率が減少している現状もある。 そこで次の点について伺う。</p> <p>執行率87.7%の影響と来年度に繰り越した約45億円の事業への影響について。 復興事業費関連不用額の理由について。 通常分減額が、市民生活全体に及ぼす影響について。 平成28年度の成果を踏まえ、新市長としての「震災復興施策」および「心のケア」を中心とする福祉関連事業の課題について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	質疑事項	要 旨
<p>第3位</p> <p>清新会 滝 健一</p>	<p>1.平成28年度一般会計、各種特別会計決算における政策的成果等に関する総括について</p>	<p>決算は予算に基づく収支を集計したものであり、予算執行による成果報告書でもある。取りも直さず後年度の予算編成、行政執行や行財政運営の改善に生かされるべきでもある。</p> <p>議決した予算の趣旨と目的どおり適正にして効率的に執行されたか、そして、どのように行政効果が果たされたか、また、今後の行財政運営での改善工夫が最大限発揮されるべき観点から次の点について伺う。</p> <p>(1) 決算内容を政策的成果に鑑<sup>かんが</sup>みて、どのように評価し、総括しているか、特筆に値する点について。</p> <p>(2) 主要施策の成果で、目的、活動、成果を混合しているものがある。主要な事業における費用対効果の特徴をどのように分析しているか。</p> <p>(3) 財源の確保と経費の削減の道筋をどのように捉えているか。</p> <p>(4) 各事業で成果にはほとんど目的達成に肯定的である、しかし事業目的に繋<sup>つな</sup>がり難いものもあったと思われる。その傾向について。</p> <p>(5) 今期決算から見た本市の今後の財政見通しについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	質疑事項	要旨
<p>第4位</p> <p>市民クラブ</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1.平成28年度決算の所見を伺う</p>	<p>(1)一般会計歳入について</p> <p>個人市民税、固定資産税は、震災より6年余り経過し、特定雑損失の減、所得増、課税免除の見直し等により税収が回復。今決算では増とはなったものの、一方では依然として現年度、過年度分について多額の収入未済額が生じている。この件については、どのように総括したか。</p> <p>国庫支出金は航空自衛隊松島基地があるが故の歳入、特に特定防衛周辺整備調整交付金および国有提供施設等所在市町村助成交付金について、平成17年度からの実績によれば、じり貧傾向のようである。基地存在自治体の市長会、議長会でも要望活動は行っているが、ブルーインパルスの復活、松島基地の復旧、復興の現在、市独自の要望活動について、その内容の市長の所見はいかに。</p> <p>(2)財政状況について</p> <p>単年度収支は財政調整基金の大幅取り崩しにより、約19億円のマイナスとなった。財政調整基金の年度末残高は約15億円と大幅に減少した。来る復興後の備えに対する見解を求める。</p> <p>財政健全化判断比率における、将来負担比率の状況は-7.2%といまのところ数値の見かけ上では全く心配ないが、これは震災による国県の支援等によるものが大きい。このことを踏まえた来るべき時に対する見解を問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

